

Press Release

沖縄労働局発表

令和4年4月1日(金)

担当 沖縄労働局労働基準部 健康安全課 課長 平良 喜作
地方労働衛生専門官 大村 達治
電話:098 (868) 4402

職場での熱中症対策を徹底しましょう！

～ 令和4年も熱中症クールワークキャンペーンを展開！！～

沖縄労働局（局長 西川 昌登）は、職場における熱中症予防対策「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」を全国に合わせて令和4年5月1日から同年9月30日までの間、一斉に展開していきます。

1 熱中症による労働災害の発生状況等

(1) 令和3年の発生状況（令和4年3月9日時点速報値）

令和3年は、4年ぶりに死亡災害が2人発生しており、休業4日以上の被災者も14人と前年より増加（+2人）した。

令和3年に熱中症による死亡災害も含めた16人の発生状況をみると、業種では、建設業が最多の9人（うち2人は死亡）となっており、全体の6割以上を占めた。

（別添1参照）

(2) 県内における過去10年間（平成24年から令和3年）の熱中症による休業4日以上の労働災害から見える特徴については以下のとおり。

- ① 建設業が全体の3割以上を占めていること。
- ② 40代が多いこと。
- ③ 発生時期は、6月、7月、8月の3か月間で全体の8割以上を占めていること。

（別添2参照）

2 事業者団体及び各事業者への呼びかけ等

- (1) 令和4年も4月を準備月間として、5月から9月までの期間で「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」を展開します。4月の準備期間中に

「WBGT 値 (※) の把握の準備」などに取り組んでいただくため、3月8日に、沖縄労働局では、関係団体に対し、キャンペーンの周知と確実な取組みを呼びかけました。

(※) WBGT 値とは

気温、湿度、輻射熱から算出される暑さ指数で、熱中症予防のために運動や作業の強度に応じた基準値が定められており、基準値を超えると熱中症を発症する可能性が高くなる。

- (2) 沖縄労働局では、引き続き、建設業や運送業、警備業などの屋外型産業を中心に熱中症対策の徹底について、業種団体等を通じて呼びかけるとともに、各事業場に対しても説明会や個別指導等を実施していく予定。

<呼びかける主な内容 (別添3参照)>

- ① WBGT 値を低減すること
- ② 熱への順化期間（暑さに体を慣らすための期間）を設けること
- ③ 休憩場所を設置し、水分・塩分の補給を容易に行えるよう飲料水等を備え付けること
- ④ 睡眠不足、体調不良、前日の飲酒は熱中症になるリスクを高めること

<添付資料>

別添1 沖縄労働局管内における熱中症による労働災害発生状況（令和3年、休業4日以上）

別添2 熱中症による労働災害発生状況（平成24年以降、休業4日以上）

別添3 「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」（リーフレット）

(参考：関連情報)

職場における熱中症予防/厚生労働省

職場で取り組んでいただきたい事項や熱中症に関する労働衛生教育等について掲載しています。

令和4年「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」を実施します

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_24043.html

沖縄労働局管内における熱中症による労働災害発生状況(令和3年、休業4日以上)

(令和4年3月9日時点速報値)

番号	所轄署	災害発生日	業種	年齢	性別	被災程度	災害発生状況
1	八重山	令和3年3月初旬	畜産業	40代	女	12ヶ月	牛舎内で牛を洗っている最中に熱中症の症状を発症し、腕の痛みとしびれが出現し立っていられなくなった。
2	沖縄(中部)	令和3年4月初旬	警備業	20代	男	7日	14時ごろ、当人が具合が悪そうにしていたことから、同僚が病院へ搬送し、点滴治療の後、自宅療養となった。
3	八重山	令和3年5月中旬	建設業	10代	男	死亡	現場で型枠工事の補助作業として片づけ作業をしていたところ、気分が悪そうにしていたので休憩をさせていたが、急に倒れた。
4	沖縄(中部)	令和3年5月中旬	運送業	20代	男	7日	14時ごろから30度を超える気温の構内で、汗をかきながらの荷積み中、手足のしびれなどの体の異変を感じ、救急搬送された。
5	沖縄(中部)	令和3年6月中旬	ゴルフ場	60代	女	7日	14時ごろ、ティーグラウンド上で吐き気とめまいがして倒れこみ、救急車で搬送された。
6	那覇(南部)	令和3年6月初旬	建設業	50代	男	17日	屋外で梁背筋作業中に手先のしびれがあり、会話の受け答えもあやふやなところがあったため、救急車で病院に搬送した。
7	宮古	令和3年6月中旬	建設業	50代	男	18日	車道の給水管敷設工事において、給水管を敷設し、保護砂で埋め戻して作業が完了した後、道路面に登ろうとしたところ、座り込んだ。
8	沖縄(中部)	令和3年7月初旬	その他	50代	男	4日	業務委託先の現場において、スコップやほうきを用いて汚泥の搬出作業に従事していたところ、倦怠感を感じ、手足や腰の痙攣、過呼吸のような症状がでた。
9	那覇(南部)	令和3年7月初旬	建設業	30代	男	18日	8時30分から型枠解体作業に入るが、9時30分頃、気分が悪くなり、1時間程度休憩した回復しなかったため、救急車で病院に搬送した。
10	八重山	令和3年7月初旬	建設業	60代	男	死亡	地下耐圧盤コンクリート打設に伴うコンクリート止め枠撤去作業中、昼の休憩に入るため休憩所に戻ってきたところ、直後に痙攣を起こしたため救急搬送した。
11	名護(北部)	令和3年7月中旬	建設業	60代	男	7日	17時頃、1階の型枠解体作業に従事していたところ、体調不良を訴えたことから病院へ搬送した。
12	那覇(南部)	令和3年7月下旬	建設業	50代	男	4日	躯体コンクリート打設作業を9時から13時30分まで行った後帰社したが、具合が悪くなったため病院へ搬送した。
13	那覇(南部)	令和3年8月初旬	機械修理業	40代	男	7日	燃料タンクや作業油タンクのフィルター交換等の通常の整備作業を行っていたが、夕方頃より倦怠感を覚えたことから病院を受診した。
14	那覇(南部)	令和3年8月中旬	建設業	60代	男	1ヶ月	草木の伐採中に体調不良を訴えたため、その日は昼で作業を終了した。後日になっても体調が優れなかったため病院を受診した。
15	名護(北部)	令和3年8月下旬	清掃業	50代	男	4日	公園の草刈り作業中、15時頃に気分が悪くなり、腹部が痙攣し始めたため病院を受診した。
16	沖縄(中部)	令和3年9月初旬	建設業	40代	男	6ヶ月	工場内で足場組立作業中、熱中症で倒れている被災者を発見し救急搬送した。

※ 労働者死傷病報告により作成したもの。

沖縄労働局管内における熱中症による労働災害発生状況(平成24年以降、休業4日以上)

令和3年は令和4年3月9日時点速報値

※図1～6の何れも労働者死傷病報告により集計したもの。

図1 熱中症による労働災害発生状況の推移(平成24年～令和3年)

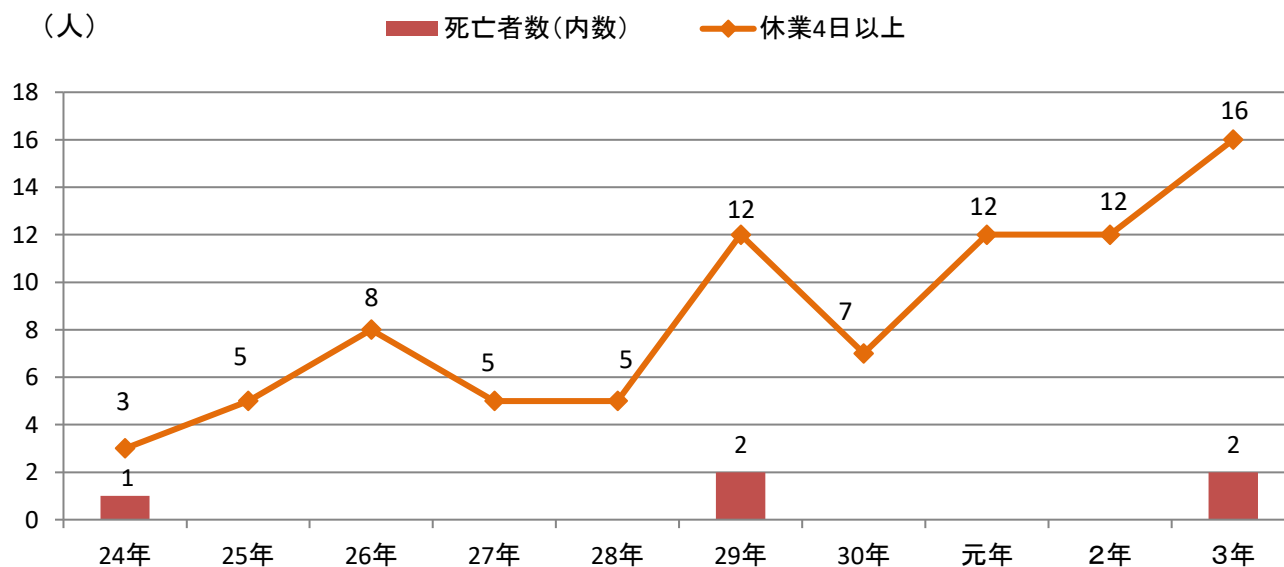
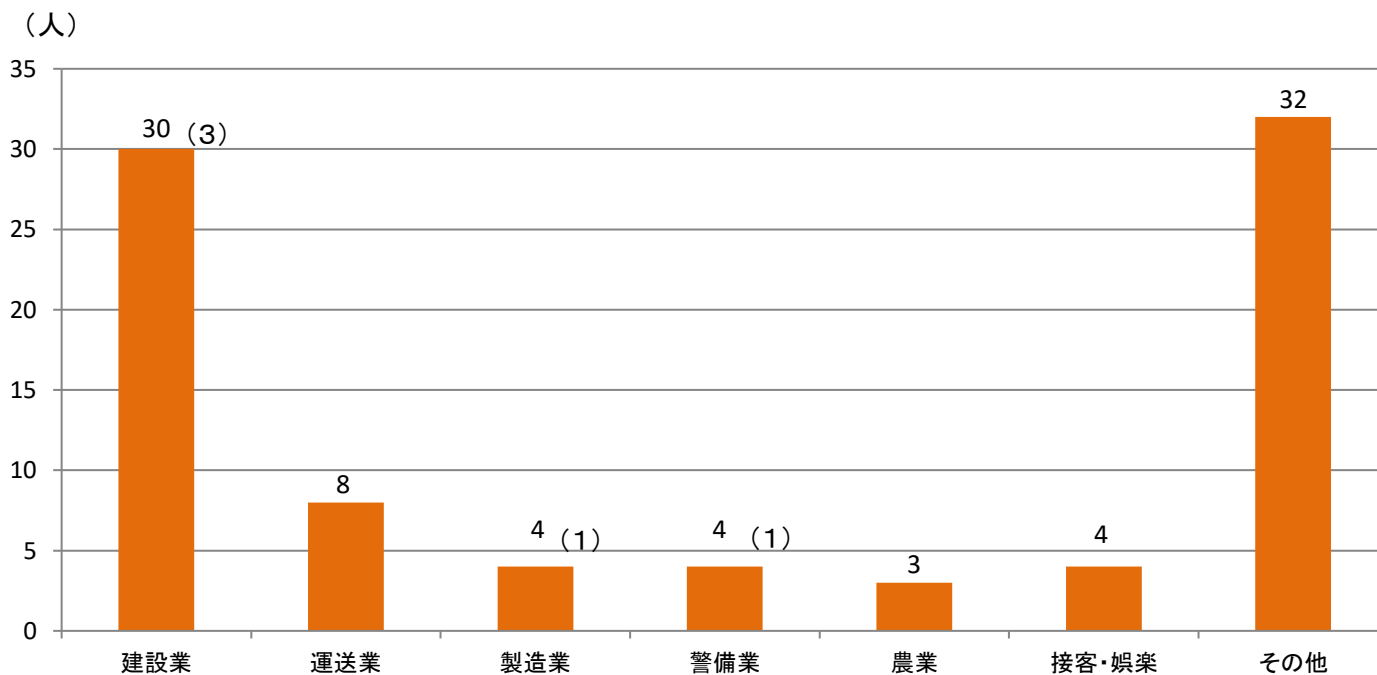


図2 業種別発生状況(平成24年～令和3年)



※()内は死亡者数であり、その業種の内数である。

图3 月別発生状況（平成24年～令和3年）

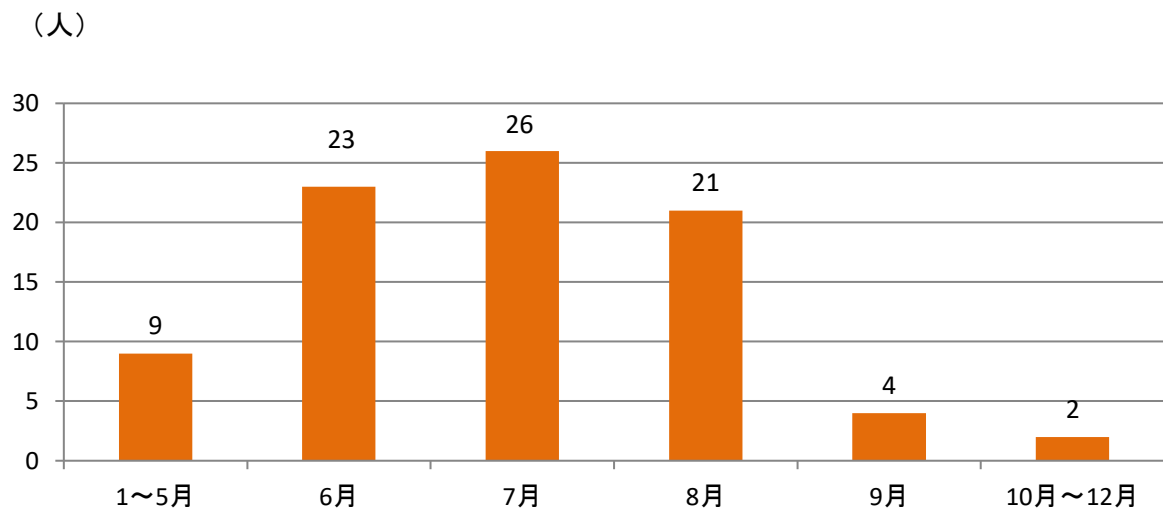


图4 時間帯別発生状況（平成24年～令和3年）

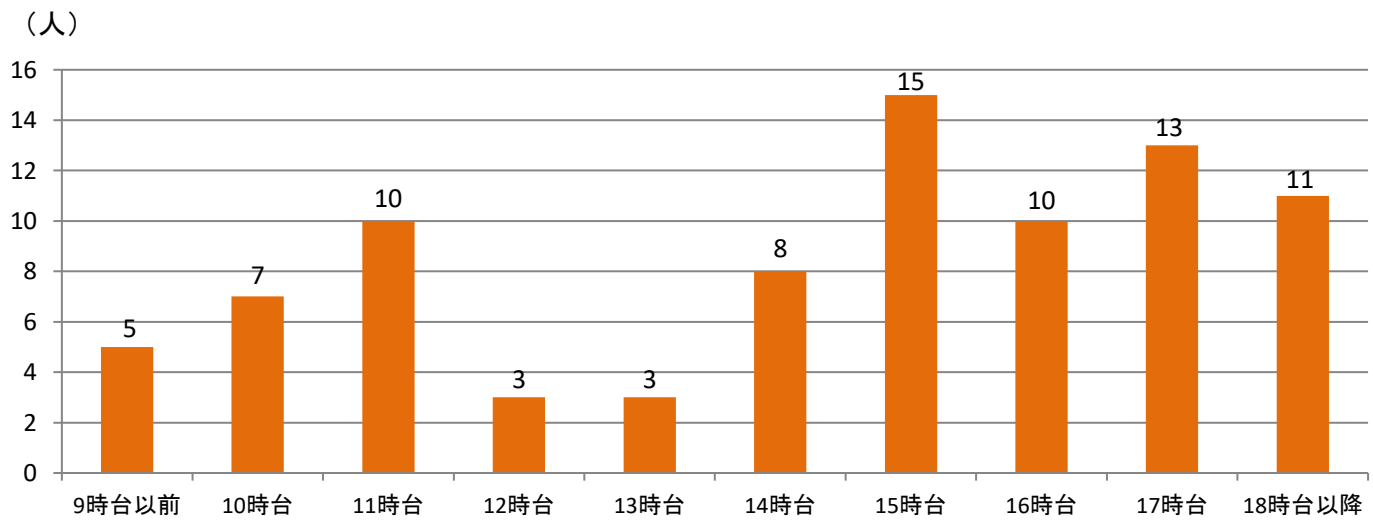


図5 年齢別発生状況(平成24年～令和3年)

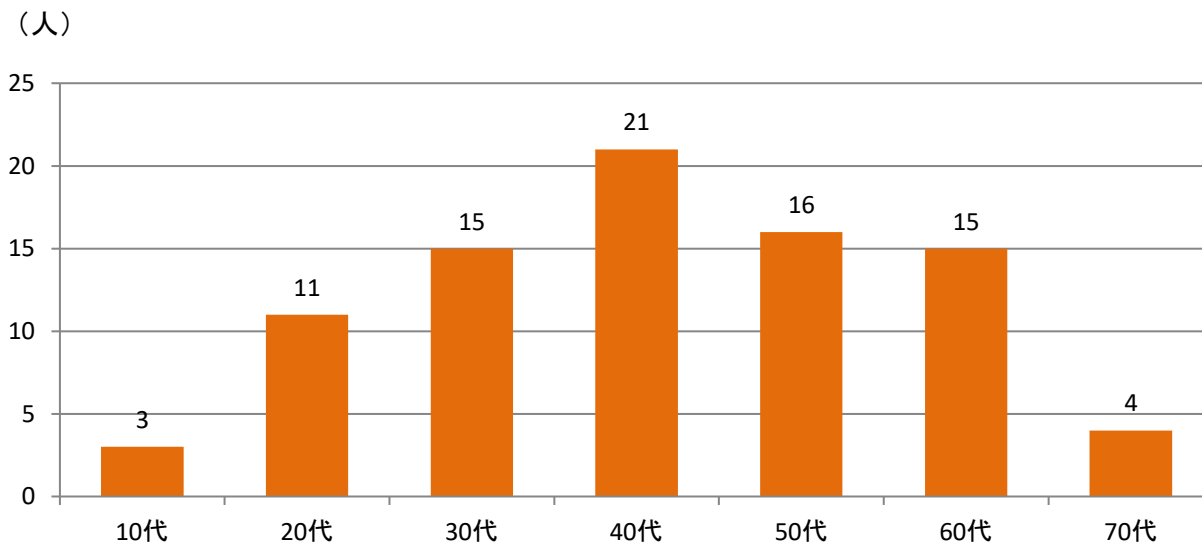
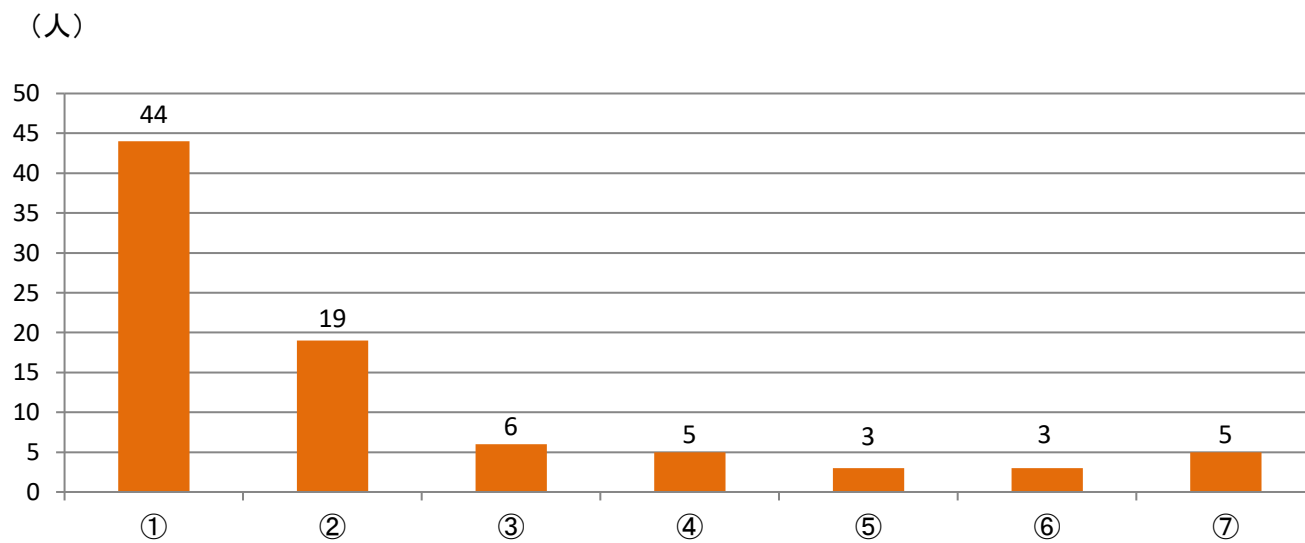


図6 休業日数別発生状況(平成24年～令和3年)



- ①:4日以上7日
- ②:8日以上14日
- ③:15日以上21日
- ④:22日以上1ヶ月
- ⑤:1ヶ月超え3ヶ月
- ⑥:3ヶ月超え
- ⑦:死亡

STOP！熱中症

令和4年5月～9月

クールワークキャンペーン

— 熱中症予防対策の徹底を図ろう —

職場における熱中症により、毎年約**20人**が亡くなり、約**600人**が4日以上仕事を休んでいます。夏季を中心に「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」を展開し、職場での熱中症予防に取り組みましょう！



労働災害防止キャラクター **チューイ** カン吉

事業場では、期間ごとの実施事項に重点的に取り組んでください。

●実施期間：令和4年5月1日から9月30日まで（準備期間4月、重点取組期間7月）



確実に実施できているかを確認し、□にチェックを入れましょう！

準備期間（4月1日～4月30日）

WBGT値の把握の準備

JIS規格「JIS B 7922」に適合した**WBGT指数計**を準備しましょう。



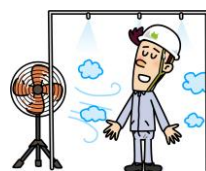
作業計画の策定など

WBGT値に応じて、作業の中止、休憩時間の確保などができるよう**余裕を持った作業計画**をたてましょう。



設備対策・休憩場所の確保の検討

簡易な屋根の設置、通風または冷房設備やミストシャワーなどの設置により、**WBGT値を下げる方法**を検討しましょう。また、作業場所の近くに**冷房**を備えた休憩場所や**日陰**などの涼しい休憩場所を確保しましょう。



服装などの検討

通気性の良い作業着を準備しておきましょう。**身体を冷却する機能をもつ服**の着用も検討しましょう。



教育研修の実施

熱中症の防止対策について、**教育**を行いましょ。

迷わず救急車を呼びましょう！

労働衛生管理体制の確立

衛生管理者などを中心に、事業場としての**管理体制**を整え、必要なら**熱中症予防管理者の選任**も行いましょう。



発症時・緊急時の措置の確認と周知

体調不良時の休憩場所や状態の把握、悪化時に搬送する病院や緊急時の対応について確認を行い、周知しましょう。



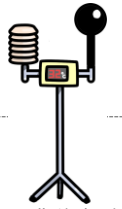
【主唱】厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会 【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会 【後援】関係省庁（予定）

キャンペーン期間（5月1日～9月30日）

STEP 1

□ WBGT値の把握

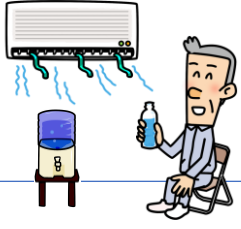




JIS 規格に適合したWBGT指数計でWBGT値を測りましょう。



WBGT指数計の例

STEP 2

準備期間中に検討した事項を確実に実施するとともに、測定したWBGT値に応じて次の対策を取りましょう。

<input type="checkbox"/> WBGT値を下げるための設備、休憩場所の設置	準備期間に検討した設備、休憩場所を設置しましょう。休憩場所には氷、冷たいおしぼり、シャワー等や飲料水、塩飴などを設置しましょう。準備期間に検討した通気性の良い服装なども着用しましょう。	
<input type="checkbox"/> 通気性の良い服装等		
<input type="checkbox"/> 作業時間の短縮	WBGT値が高いときは、 単独作業を控え 、WBGT値に応じて 作業の中止 、 こまめに休憩をとる などの工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/> 暑熱順化	暑さに慣れるまでの間は 十分に休憩を取り 、 1週間程度かけて徐々に身体を慣らし ましょう。特に、 入職直後 や 夏季休暇明け の方は注意が必要です！	
<input type="checkbox"/> 水分・塩分の摂取	のどが渴いていなくても 定期的に水分・塩分 を取りましょう。	
<input type="checkbox"/> プレクーリング	休憩時間にも体温を下げる工夫をしましょう。	
<input type="checkbox"/> 健康診断結果に基づく措置	①糖尿病、②高血圧症、③心疾患、④腎不全、⑤精神・神経関係の疾患、⑥広範囲の皮膚疾患、⑦感冒、⑧下痢 などがあると熱中症にかかりやすくなります。医師の意見をきいて人員配置を行いましょう。	
<input type="checkbox"/> 日常の健康管理など	前日はお酒の飲みすぎず、よく休みましょう。また、当日は朝食をしっかり取るようにしましょう。熱中症の具体的症状について理解し、熱中症に早く気付くことができるようにしましょう。	
<input type="checkbox"/> 作業中の作業者の健康状態の確認	管理者はもちろん、作業員同士お互いの健康状態をよく確認しましょう。特に、入職直後や夏季休暇明けの作業員に気を配りましょう。	

STEP 3

熱中症予防管理者等は、WBGT値を確認し、巡視などにより、次の事項を確認しましょう。

<input type="checkbox"/> WBGT値の 低減対策 は実施されているか
<input type="checkbox"/> WBGT値に応じた 作業計画 となっているか
<input type="checkbox"/> 各作業者の 体調 や 暑熱順化の状況 に問題はないか
<input type="checkbox"/> 各作業者は 水分 や 塩分 をきちんと取っているか
<input type="checkbox"/> 作業の 中止 や 中断 をさせなくてよいか



□ 異常時の措置

- ～少しでも異変を感じたら～
- ・ いったん作業を離れ、休憩する
 - ・ 病院へ運ぶ、または救急車を呼ぶ
 - ・ 病院へ運ぶまでは一人きりにしない

重点取組期間（7月1日～7月31日）

- 実施した対策の効果を再確認し、必要に応じ追加対策を行いましょう。
- 特に梅雨明け直後は、WBGT値に応じて、作業の中断、短縮、休憩時間の確保を徹底しましょう。
- 水分、塩分を積極的に取りましょう。
- 各自が、睡眠不足、体調不良、前日の飲みすぎに注意し、当日の朝食はきちんと取りましょう。
- 期間中は熱中症のリスクが高まっていることを含め、重点的に教育を行いましょう。
- 休憩中の状態の変化にも注意し、少しでも異常を認めたときは、ためらうことなく病院に搬送しましょう。

